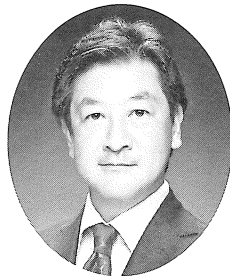




出版クラブ会報 No.615



「出版界の総親和」 設立の理念に立ち返る

日本出版クラブ会長 野間 省伸

(のま・よしのぶ)

あけましておめでとうござ
います。

今年、日本出版クラブは創
立70周年を迎えます。195
3年、すなわち昭和28年9月、
戦中戦後の混乱期を乗り越
え、ようやく訪れた平和の時
代に、出版界の大同団結を果
たすべく、「出版界の総親和」
という精神を掲げて設立され
ました。諸先輩方の思いに心
はせるとき、平和な時にこそ
出版界の安定した繁栄はある
とあらためて肝に銘じるもの
であります。

一方で、同じ昭和28年には
テレビの本放送が開始されま
した。つねに新しいメディア
と切磋琢磨しながら、創意工

夫を重ねて、出版は人々に受
け入れられ続けてきたといえ
るでしょう。これからも、次
の10年、そして創立100周
年に向けて努力を重ねていき
たいと思います。

この一年を振り返ります
と、5月13日に「第61回全出
版人大会」を、3年ぶりに従
来の会場であるホテルニュー
オータニで開催いたしました。

千葉均さん(ポプラ社社
長、日本出版クラブ理事)に
「調和と持続」をコンセプト
に大会委員長をお務めいただ
きました。大会声明では「出
版業界の持続可能性を高める
ための議論や行動を通して、
人類全体の持続可能性を高め

ることに資すること」が出版
人の大切な役割であると謳わ
れました。記念の講演者は、
国際アンデルセン賞作家賞受
賞の児童文学者角野栄子さ
ん。第59回、60回の方々も合
わせて、長寿のお祝いと永年
勤続の表彰をいたしました。

主な記事

- ▽2023年 新年名刺交換会団体代表ご挨拶……………一〇五
- 野間 省伸・小野寺 優・堀内 丸恵・近藤 敏貴・矢幡 秀治
- ▽新春紙上名刺交換……………六十八
- ▽〈出版歳時記〉地元郷土誌からわかること……………二十

(のま・よしのぶ)

野間 省伸

会」が、こちらもまた3年ぶ
りに箱根の地で開催されまし
た。第52回、第53回の功労者
14名と合わせて、計18名の
方々を顕彰いたしました。あ
いにくの雨の中ではありまし
たが、ご出席いただいた皆様
に厚く御礼申し上げます。

2022年度上期4月〜9
月の会館の営業状況は、会
議・宴会の利用件数が対前年
比137%、利用者数は21
2%と順調に回復していま
す。事業収支はわずかではあ
りますが、黒字となりました。
創立70周年を機に、よりメン
バー間の交流を深める場とし
て機能していきたいと思いま
す。

新ビルの開館以来、3階ク
ラブライブラリーを舞台とし
た企画展、「小さな本の展覧
会」は15回目を迎えることが
できました。昨年開催した企
画展「コロナ禍と読書——私
たちが気づいたこと忘れたく
ないこと」で「未来に残した
い本」を募集したところ、31
名の方から30編の物語をいた

だきました。9月の「未来に
残したい忘れたくない本」の
展覧会に合わせて、1冊の本
にまとめることができました。
全国の図書館にも寄贈し、
本との出会いにお役に立てれ
ばと思います。

新ビル開館時に出版クラブ
維持員各社からの約4000
冊、JBBY(日本国際児童
図書評議会)からの約300
0冊の寄贈本をもとに、クラ
ブライブラリーは始まりまし
た。その後も企画展に合わせ
て寄贈いただき、蔵書数は現
在約8000冊に及んでいま
す。開設5周年を機に、タイ
トルやISBNなどから検索
できるよう蔵書のデータベ
ス化に取り組んでいます。よ
りご利用しやすいライブラリ
ーを目指していきたいと思
います。

出版業界には、流通改革、
海賊版対策、著作権問題など
様々な難問が山積していま
す。どれも個社の努力だけで
は解決しきれない大きなテ
マです。「出版界の総親和」
という理念のもと、出版クラ
ブとしても各団体、各社と連
携して、こうした課題に取り
組んで参りたいと存じます。
本年も何卒よろしくお願
いいたします。

(講談社社長)

本を読む姿

工藤 裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います、本年もよろしく、御願ひ致します。
昨年は社内で、「本を読む人は心も裕福でカッコいい」をコンセプトに本を読んでいる姿の写真を募集審査し、選ばれた方には、図書カードをプレゼント。読んでいる姿もファッションとして、カッコいいと、流行らせていきたいと弊社ホームページやインスタなどで発信してきました。今年も続けていきます。
#読裕姿(よみゆーし)
(工藤出版サービス代表取締役社長)

年頭の所感

森岡 憲司

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
今年の干支は「癸(みずのと)卯(う)」。勢いよく飛び出る年、成長や飛躍のための準備が実り、芽吹き始める年と言われています。中央社は、今後とも安定した商品供給を継続するとともに、お得意様のさらなる飛躍を期して、役員が一丸となって全力を挙げて新しい挑戦に取り組んでまいります。本年も何卒倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。
(中央社代表取締役社長)

本之力

小塚 昌弘

新年おめでとうございます。昨年は3年ぶりに「神保町ブックフェスティバル」が開催され、大盛況でした。本を読むことはもちろん一人でもできますが、当日、会場で強く感じたのは、本の、人と人をつなぐ力です。本の売り買い、貸し借り、読み聞かせやブックトークなどさまざまな場面で、本が我々を結びつけていたのだと、改めて気づかされました。
これからもコロナに負けずに、読書推進運動を展開してまいりますと存じます。
(読書推進運動協議会事務局長)

誠実に生きる

志村 孚城

人間社会で八一年も現役を続けていると、様々な人間の業や煩惱の深さが見えてきます。特に最近日本も含め各国の首脳の中には「誠実に生きる」を見失った人達が目立ちます。人間は古代ギリシャからこの課題を探求してきて、出版文化がその成果を蓄積しています。未来を担う若者達に「考える力」を育成し、出版界が「考える材料」を提供し、「誠実に生きる」一人が認められる社会に変革させることを祈念しております。
(創生代表取締役)

年頭所感

本田 正明

新年明けましてお目出度うございます。
美術書出版(株)芸艸堂東京支店も一〇五年を迎えることになりました。コロナ禍の中昨年は松濤美術館で「津田青楓 図案と、時代と」展、パナソニック汐留美術館で「つながる琳派スピリット 神坂雪佳」展を盛會裏に終了し永田生慈先生の監修解説の北斎絵手本集成全七巻も無事出版出来ました。今年も昨年以上に出版活動が出来る様頑張っております。
(芸艸堂顧問)

外野席より

中濱 久

謹んで年頭の御祝詞を申し上げます。『出版クラブだより』毎号現役の皆様御活躍や偉大な先達の足跡等楽しく拝し、また出版歳時記では、出版業界の「今昔」を御教示頂いております。今年もまたウイズコロナの年となりますが、出版が担う文化知識情報の伝達という役割は、その重要性を社会から期待されています。読者は読者に想像力・創造性・思索性の楽しみを与える文化です。文化の担い手として出版界の御発展を心より外野席より祈念します。
(共同印刷元専務取締役)

備えあれば、実行の年

山 了吉

ちょうど百年前の1923年(大正12年)9月は、関東大震災が発生している。不安を煽るわけではないが、天災は忘れた頃にやってくる。もので、災害への対策とその心構えは欠かせない。未だ鎮静しない新型コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略戦争も終結を見い出せない。内外に心と身体を揺さぶられる現象が途絶えることのないこの現実! 備えあれば憂いなしを肝に銘じて新年を迎え、今年も乗り切っていきたい。
(出版倫理協議会議長)

諸行無情

児玉 幸彦

アメリカがくしゃみすれば日本が風邪をひく。そんな時代に勤めていたから昨今のドル高・円安は納得できない。特に外食産業、農産物の輸入に6割以上も頼るのは先進国でも最下位だ。衣も住も間に合っている。頑丈なソーラーハウスで野菜を、休耕地を農産物で自給自足すべきだ。更には例えば火山地帯の公園から電力を生み原発廃止を研究すべきだ。働いた時代の半分が過ぎた、やることはやった。川を渡る前に見たいが、夢か。
(出版同代会顧問、元双葉社)

焼き肉と富士山

片桐 隆雄

毎年の様に静岡に行っている。目的は焼き肉、ホテルからの富士山と日の出である。市内にある焼き肉の店「F商店」は既に無くなりつつある貴重な昭和の味わいが堪らず、勝手に取るおでんも絶品です。宿泊は「日本平ホテル」。飲み過ぎの酒が抜ける頃ベランダに出ると、少し明るい駿河湾の向うに、くっきりと富士山のシルエット、右手には三保の松原、その間から徐々に昇る太陽、いつでも心が震え滾ります。真に万物には意味がある様な絶景です。今年こそ良い年でありませう。
(マガジンハウス代表取締役社長)

引当率一〇〇%への挑戦

瀬津 要

新年おめでとうございます。昨年弊社は出版倉庫の移転という大きな変革の時を迎えました。移転後の倉庫を見回る中で痛感したのが、書店様からの日々の注文に確実に応じることの大切さ。お役立ち度を究極にまで高めるためにも、引当率一〇〇%の版元を目指そうと、深く心に誓いました。データの整備など課題は多いのですが、懸命に取り組んで参ります。本年もご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。
(PHP研究所代表取締役社長)

年頭の挨拶

植松 貞夫

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。
当協会は一八九二年の発足以来、日本の図書館及び図書館員を支えてきました。今後も図書館の発展により、人々の生活を豊かにし学術文化の進展に寄与するとう公益法人としての使命を果たしてまいります。そのためには、出版界の皆様との連携・協力が不可欠です。コロナ禍により厳しい状況が続きますが、会員の英知を結集して前進する所存です。本年もよろしくお願ひいたします。
(日本図書館協合理事長)

大学ファンドへの疑問

山下 正

大学出版部に所属した経験から大学の動向には注視してきている。日本の研究力低下を打開すべく登場した政府の「大学ファンド」(10兆円基金で特定大学に年数億円の研究支援)は実施段階に入り、今年中に支援対象大学が五、七校選定される運びだ。この計画で研究力は再生できるのか、疑問が残る。任期のない若手研究者を増やし、自由に使える研究費を投入、多様な基礎研究を可能にする環境づくりこそが解決への道筋では。
(大学出版部協会顧問)

年頭所感

川上 浩明

出版流通にマーケットインの思想を取り入れる。その実現の要となる新しい仕入・配本プラットフォーム「enCONT A.C.T」が、今年から本格的にお取引先の皆様にご利用頂けるようになります。JPROデータと連携し、皆様にとって本場に使い易いシステムになるよう時間を掛けて開発して参りました。2023年、出版情報を探る環境は大きく変わります。情報活用レベルも格段に向上します。業界の皆様幅広くご利用頂きますと幸いです。
(トーハン代表取締役副社長)

ピンチはチャンス

松信 健太郎

あけましておめでとうございませう。新型コロナウィルスによる生活様式の変化、先が見えない新しい出版流通など、課題は山積し、先行不透明な状況が続いております。しかし、ピンチはチャンス。混迷は新しいステージへの出発の契機。恐れず、勇気をもって一歩を踏み出すことこそが現状打破への鍵になると信じています。本年も社業発展、業界発展のために力を尽くす所存です。ご指導のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
(有隣堂代表取締役社長)

オフィス仮移転その後

土井 成紀

昨年のこの欄で、オフィスの仮移転の話を書いた。引越越しそのものは順調に終わり、ホッとしたもの、スペースが少し狭くなったにも関わらず、以前より新しいビルに移ったため家賃代がかさむことに。諸経費の値上がりもあって、経常的な支出が増えている。スリムで強靱な体制作りが喫緊の課題で、組織・要員を含めて、幅広く見直しを検討している。コロナ禍への対応もあり、今年も厳しい現実と向き合う一年になりそうだ。
(NHK出版代表取締役社長)

新年はどんな年に

岡本 明剛

コロナ禍に加え、ウクライナ戦争も年越しとなった。今年も厳しい年を覚悟せねばならない。こういう年こそ人々の心を励まし、パワーを与える「ことばの力」、「本の力」が必要になる。昨秋、業界挙げて取り組んだ新たな「秋の読書推進月間」。今まで本を開かなかった層をも取り込もうとする大きな構想だ。これを吉所に全国の書店さんが元気に輝き、読者が倍増し、魅力ある業界に発展できることを願う。
(増進堂・受験研究社代表取締役社長)

幸運な世代

岡崎 満義

80代半ばになると、外に出て人と喋ることも少なくなる。この一年は茅ヶ崎市が開いてくれた高齢者向けの体操教室に、週2回夫婦で通っている。朝10時から夕方5時まで、昼弁当がでて、風呂にも入れる。メンバーは6人、スタッフ4人と和気あいあいお喋りができる。昭和10年代以降に生まれた男は、兵隊にかり出されることもなく、高齢になればケア施設が用意されている。まことに幸運な時代に生まれたと感謝している次第。
(文藝春秋元編集総局長)

不易流行と温故知新を重ねる一年に

坂東 宗文

新年あけましておめでとうございませう。
皆様の昨年のご厚情を改めて御礼申し上げます。本年当社は暮しの手帖創刊75周年という節目の年となります。干支の卯に願をかけ「社内安全」と「飛躍」を目指して全員一丸となって活動して参ります。
私自身はコロナ禍に健康の為に始めた散歩に一味加え、名所旧跡や街道等の今昔様相の変わり様を確かめながら、知見を広げて参りたいと思っております。本年もよろしくお願ひ致します。
(暮しの手帖社代表取締役社長)

2023年頭所感

渡部 正嗣

2023年は高校の新学習指導要領2年目であり、教育出版業界においてビジネスチャンスが期待できる年です。弊社としては、学参・辞典等の販売増強を通じて、業界を盛り上げるべく、エンドユーザー向け動画・オリジナルPOP等を活用した売場活性化企画や「教科書に出る本」等の図書館向け企画など、本年も積極的に提案活動を行ってまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。
(日教販代表取締役社長)

2025年の崖

寺川 光男

経済産業省がDXレポートで、ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開を公表してから5年目を迎えます。過剰なコストマイズで複雑化しブラックボックス化した既存システムからの脱却の必要性を問うています。デジタル競争力の強化こそがビジネスモデルを柔軟迅速に変更できるとして、2025年までにシステム刷新を集中的に推進する必要があります。これら課題克服に寄与すべく、一同注力して参ります。本年もご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。
(光とコンピュター代表取締役社長)